Keyword 金属彫刻、現代美術、存在

彫刻の制作を通し、現代美術における立体表現の可能性を探る

造形短期大学部
造形芸術学科
教授
小田部 黄太

研究シーズの紹介

主に金属彫刻の制作を通し、以下に述べることを明らかにしていくことを研究の目的としている。

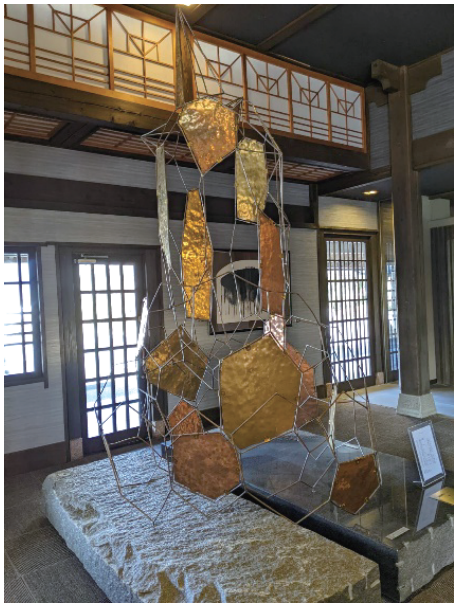
彫刻とは存在しているということがその本質的な特質であると考えている。したがって、テーマは存在そのものをどうとらえ、表現するかということである。つまり、存在「そこにあること」とは何かということである。

ここ数年は仏教でいうところの「縁起」ということを手掛かりとし、人が認知している世界、あるいは人が作り上げている社会は「関係性」で成り立っている、という観点から存在、言い換えれば「そこにあること」というものをとらえることを試みている。

研究の性格から複数年にわたり継続的に行っている研究である。

Point **存在と認知の関係性**

- 存在とは物理的に物体が実在することである。
- それに対し鑑賞者あるいは制作者たる人にとっては、それを認知することによってはじめて存在となる。



期待される活用シーン

- 企業や自治体等において屋外空間や建築内の空間演出

→ 彫刻やモニュメントを設置することで、美しく個性的で、かつ文化的な空間を造る。 →

上記の写真は湯布院の旅館「梅園」の改装後のロビーのモニュメント
2021年12月設置